郷ノ浦港旅客船ターミナル整備事業

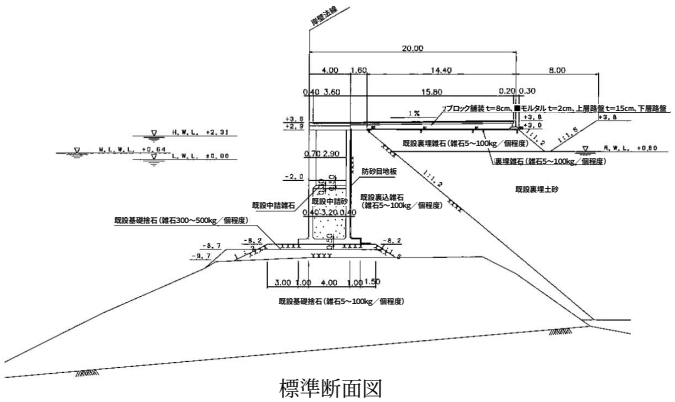
受賞機関　国土交通省九州地方整備局長崎港湾・空港整備事務所

はじめに

九州北西海上に浮かぶ壱岐島の南西岸に位置する郷ノ浦港は、本土と壱岐島を含む近隣諸島とを結ぶフェリー・旅客船航路を持つ海の玄関口として発展してきた。近年、クルーズ需要の高まりから、壱岐島への観光船の寄港も増大してきたが、島内には、大型観光船が接岸できる係留施設がなかったため、はしけによる２次輸送により上陸を余儀なくされていた。このような問題を解消するため、平成９年より、郷ノ浦港内に水深－7.5m、延長220mの岸壁整備に着手し、平成16年３月の完成を図った。

事業の概要

○岸　　壁：水深－7.5m、延長220m
○構 造 形 式：本体：スリットケーソン
　　舗装：インターロッキングブロック
　　（高質化舗装）
○事業実施期間：平成９年度～平成16年度
○事　業　費：約20億円



標準断面図

事業の効果

⑴ 安全性の向上

観光船からはしけによる乗下船の必要がなくなり、天候に左右されることなく、安全な移動が可能になった。

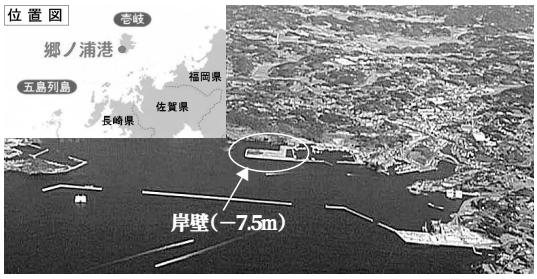
⑵ 島内観光の効率化

岸壁に接岸可能になったことより、はしけによる乗下船に要していた時間が短縮され、これにより観光等への時間的な余裕が生まれ、より一層、壱岐島を満喫することができるようになった。

⑶ 経済効果

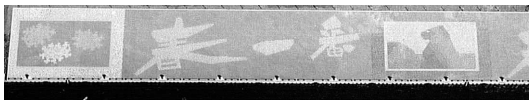
気象海象条件により、寄港が左右される危険性が減少し、また、乗下船時の安全性・利便性の向上などにより、観光船の寄港頻度が増加した（平成15年度１隻、平成16年度６隻）。

これにより、乗船客が消費する飲食物、お土産による収入の増加が図られ、地域産業、島内経済の活性化に貢献している。



郷ノ浦港全景

旅客船ふ頭イメージパース



エプロン舗装全景

（〔エプロン上に気象用語『春一番』の文字を描き、発祥の地であることをピーアールしている。
（『春一番』：1859年春の強い突風により壱岐の多くの漁師が命を落としたことから生まれた言葉。〕）

おわりに

今回の岸壁整備により、大型観光船の安全な離接岸、並びに観光客の安全な乗下船が確保され、これにより大型観光船の寄港が誘発され、島内はもとより、近隣諸島の地域経済の活性化が図れることを期待している。

賛助会員　みらい建設工業㈱、りんかい日産建設㈱